

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	神埼市立西郷小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習面においても生活面においても職員が共通理解をし、一丸となってぶれない指導を行う「凡事徹底」の大切さと効果を実感する一年となった。来年度も、職員一人一人がもつ感性を大切にしながら抱いた違和感を見逃さず、「いつでも・どこでも・だれでも100%達成」を目指して「凡事徹底」を図っていく。</li> <li>佐賀県教育委員会研究委嘱「ESD」のまとめの年となり、身に付けさせたい資質・能力(3C)育成のためのカリキュラムマネジメントや問題解決的な学習過程の充実等多くの成果を得ることができた。来年度は、今年度の成果を活かしながら研究教科を算数科に据え「予習的家庭学習(算数チャレンジ)の授業への効果的な活かし方」「個別最適な学びを保障する学習過程の工夫」「アウトプットの機会確保のための対話的・協働的な学習の充実」等を視点にしながら研究を進めていく。</li> <li>今後も働き方改革を推進し、やりがいがあり健康的な職場を目指していく。</li> </ul>
2 学校教育目標	教育目標「一人一人が意識して学びの道にしそむ西郷っ子の育成」 校訓 ～学び愛し翔る西郷小～
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①子供達一人一人が落ち着いて学習に取り組み、友達と協力しながら社会性を身に付けていく学校づくりを行う。</li> <li>②主体的に学び、進んで表現する児童の育成を図る。</li> <li>③全ての職員が組織の一員として協働すると共に、共通理解・共通実践を行うことで「凡事徹底」を図る。</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				主な担当者					
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価			
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマインプランの成果指標を達成した教師90%以上	・教職員間でマインプランを共有し、校内研修等により、取組の促進を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員がマインプランと行動目標を意識した授業づくりに取り組んだ。指導案等を通して共有化を図った。</li> <li>成果指標1は92%、成果指標2は77%、成果指標3は82%と、達成率は前年度の中間評価と比較すると上回っている。今後も児童の実態に合わせて、継続して取り組んでいきたい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの実践を発表しあう場を作ることで、職員一人一人がマインプランを意識して授業を行うようになった。</li> <li>成果指標1は100%、成果指標2は85%、成果指標3は93%と、中間評価と比較しても上回っていることがわかる。</li> </ul>	・	<ul style="list-style-type: none"> <li>学び部(部長)</li> <li>研究主任</li> <li>学力向上対策コーディネーター</li> </ul>
	○45分間(1単位時間)で完結し、児童が「分かった」から「できた」へ」を実感できる授業実践	○算数科において、次時の学習につながる家庭学習に取り組むことができる児童90%以上にする。 ○「授業で自分の考えを書くことができる」の質問に対して肯定的な回答をする児童80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の導入で「算数チャレンジ」をもとにした時間を設定する。</li> <li>既習事項を基にして考え、書いたことを話し合う活動を取り入れる。</li> <li>タブレット端末を活用した適用問題や応用問題に取り組ませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数科において、次時の学習につながる家庭学習に取り組むことができる児童の割合は84%で、「授業で自分の考えを書くことができる」の質問に対して肯定的な回答をした児童の割合は89%だった。算数チャレンジの目的や方法を再確認し、各児童が自分なりに課題意識を持って授業に臨む姿を目指す。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの児童が「算数チャレンジ」に取り組んでいる。その中で、課題意識をもって授業に臨む児童が少しずつ増えてきている。</li> <li>タブレット端末を活用して基本問題に取り組むことはできているが、応用問題に取り組む点については課題である。</li> </ul>	・	<ul style="list-style-type: none"> <li>学び部(部長)</li> <li>研究主任</li> <li>学力向上対策コーディネーター</li> </ul>	
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をする保護者85%以上、教職員・児童90%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあい道徳を授業参観に設定し、礼儀、生命尊重、友情、規則の尊重等を主題にした授業を保護者や地域に公開する。</li> <li>人権週間、読み聞かせや「ほかほかことば」等の活動を通して人権意識を高める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>平和集会では、読み聞かせや「平和のたね」の歌やダンスに取り組み、全校児童が平和について考えるきっかけとなった。平和集会実施後の児童の感想には、平和についての肯定的な感想が多数書かれていた。</li> <li>人権週間については、2学期に実施予定である。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権集会では、人権の三本柱とチクタク態度について集会運営委員会の児童が劇で啓発し、全校でいじめについて考えることができた。</li> <li>保護者アンケートでは、90%の保護者が思いやりの心を育てる取り組みの成果があがっていると回答している。</li> </ul>	・	<ul style="list-style-type: none"> <li>心はくみ部(部長)</li> <li>道徳教育担当</li> <li>人権・同和教育担当者</li> </ul>
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○毎月「こころのアンケート」、年に2回のいじめアンケートやQUTテストを実施し、いじめ0を目指す。(100%実施、「学校は楽しい」を90%以上)	<ul style="list-style-type: none"> <li>実態把握を行うことで早期対応に努める。</li> <li>アンケートをもとに児童の観察を行う。必要に応じて児童と面談を行う。</li> <li>お話を聞き取り後に設定し、各担任が児童一人一人と面談を行う。</li> <li>学校便りや学級便りを取り組みについて知らせていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月「こころのアンケート」を行い、早期対応をすることができた。今後もアンケートや児童の観察をもとに、保護者と連携しながら、いじめの無い学校を作っていく。</li> <li>7月のアンケートでは、「学校が楽しい」と答えた児童が88%だった。更に意識を高めていきたい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>お話を聞き取りを全校で実施し、各学級担任が児童一人ひとりにヒアリングを行った。</li> <li>1月の児童アンケートでは96%の児童が「学校が楽しい」と答えている。今後も意識を高めていきたい。</li> </ul>	・	<ul style="list-style-type: none"> <li>心はくみ部(部長)</li> <li>教育相談担当</li> <li>教頭</li> </ul>
	○特別支援教育の体制作り	○特別支援教育のあり方や校内環境整備(ユニバーサルデザイン)について全職員で共通理解をする。 ○研修会を年間に3回以上実施する。(達成率100%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日付、日直等は後ろ黒板等を使う。</li> <li>4月に配慮を要する児童の共通理解、8月以降講師招聘の研修会・事例研修会を行う。</li> <li>通常学級の児童に向けて、特別支援学級についての話をする機会を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8月に教育相談と特別支援教育の研修会を開き、全職員で特別支援教育についての知識を深めることができた。</li> <li>1学期の始業式の日、全校児童に向けて特別支援学級についての話をする機会を設け、特別支援についての共通理解を図ることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝食調べをFromsを活用して6月に実施した。結果をお便りとして10月に配布予定。</li> <li>6月に養護教諭と連携した授業を実施。11月に栄養教諭と連携した授業を実施予定。</li> <li>朝食に関する項目において、児童・保護者共に95%以上の肯定的な回答を得た。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>11月の参観日に合わせて今後の進路についての相談会を実施し、保護者と専門家の連携をもつことができた。</li> </ul>	・
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上。	<ul style="list-style-type: none"> <li>食育の計画に応じて、栄養教諭や養護教諭と連携しICTを活用した授業を行う。</li> <li>朝食摂取率のアンケートから実態を把握し、朝食摂取の励行を図っていく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝食調べをFromsを活用して6月に実施した。結果をお便りとして10月に配布予定。</li> <li>6月に養護教諭と連携した授業を実施。11月に栄養教諭と連携した授業を実施予定。</li> <li>朝食に関する項目において、児童・保護者共に95%以上の肯定的な回答を得た。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝食に関する項目において、7月に引き続き、児童・保護者共に90%以上の肯定的な回答を得た。</li> <li>6月に実施した朝食調べの結果をお便りにて配布し、家庭との共通理解を図った。</li> <li>「健康に食事は大切である」と考える児童は93%だった。</li> </ul>	・	<ul style="list-style-type: none"> <li>すこやか部(部長)</li> <li>食育・給食指導担当</li> </ul>
	○望ましい生活習慣の形成	○「十分な睡眠がとれている(上学年が8時間以上・下学年が9時間以上)」と答える児童80%以上。	<ul style="list-style-type: none"> <li>11月に生活習慣に関するアンケートを実施し、児童に啓発を図る。</li> <li>保健だよりで睡眠について話題提供を行い、家庭との共通理解を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>早寝早起きに関する項目においては、児童・保護者共に85%以上の肯定的な回答を得た。</li> <li>テレビやゲームの時間に関する項目においては肯定的な回答が85%以下となっていた。</li> <li>11月に生活習慣に関するアンケートを実施し、アンケート結果をもとに、児童や保護者に啓発を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>テレビやゲームの時間に関する項目において肯定的な回答は、児童・保護者ともに約60%と課題が残る結果となった。前年度に比べ、子ども達が自分の状態を自覚できるようになっているとも考えられる。</li> <li>生活習慣アンケートを保健だよりに掲載し、家庭への啓発を行った。</li> </ul>	・	<ul style="list-style-type: none"> <li>すこやか部(部長)</li> <li>生徒指導担当</li> <li>安全教育担当</li> </ul>
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>定時退勤日の設定(毎週金曜日)</li> <li>業務記録票等による振り返り実施</li> <li>見える化(週案に作業可能時間明記/定時退勤の板書を実施)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎週金曜日の定時退勤日の達成率は7割程度であるので、声掛けをしたり音楽を鳴らしたりして達成率を向上させる。</li> <li>業務記録票等を活用し、職員会議毎に振り返りを実施している。昨年度よりも時間外勤務が減少している。</li> <li>退勤時刻や作業可能時間等を可視化したことで、職員の業務効率化の意識が高まっているので継続していく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>連絡掲示板等に17:30施設への表記をしたことで、声掛けなしでも毎週金曜日の定時退勤がほぼ達成できている。</li> <li>業務記録等の振り返りによって、超過勤務時間が平均21.2時間と昨年より4時間以上も減少した。</li> <li>「残業や休日出勤が多くなりすぎないよう配慮されている」には「はい」と回答した職員が100%であった。</li> </ul>	・	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理職</li> </ul>
	○業務改善に向けたPDCAの実施	○職員へのアンケート「職場環境チェック(7月・12月実施)」における業務改善の項目にて、肯定的な回答90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>西郷ボックス、等ファイル管理の一元化による情報の効率的な共有</li> <li>行事終了後即時振り返りを行い、事後プランを立てることで、効率的に次年度に生かす。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉数が少なくなってきた職員はいない14%。「管理職が相談を受け入れる余裕がある」72%。「校務分掌等で特定の個人に負担がかかりすぎている」12%等の項目で低い結果となったので、改善の必要性がある。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「言葉数が少なくなってきた職員はいない」94%。「管理職が相談を受け入れる余裕がある」100%。「校務分掌等で特定の個人に負担がかかりすぎている」82%と中間評価より向上した。総合的にみると、肯定的な回答が90%を上回り、職場環境の改善を図ることができた。</li> </ul>	・	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理職</li> </ul>

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				主な担当者					
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価			
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○凡事徹底を図る指導	○学習面や生活面において凡事徹底を図る指導の充実	○学校アンケート(職員)において分掌事務や学級経営等において具体的な指導を行っているとの回答90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員連絡会や生徒指導部において学校の課題や共通実践事項の共有を行うと共に振り返りの機会を設ける。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「凡事徹底させるために、分掌事務や学級経営を通して具体的な指導を行っている」で4点満点中3.3という評価となった。小さい事務でも職員会議や職員連絡会で共通理解を図り、職員間で声を掛け合う等をして指導を徹底させる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校教育目標及び本年度の重点目標を具現化しようとしている」は3.4の評価。「自分の分掌事務や指導部での取組」は3.5の評価と高い評価を受けている。100%のA評価と高い評価を得た。職員連絡会等で共通理解を図った事項を確実に指導する等、成果指標を達成することができた。</li> </ul>	・	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理職</li> </ul>
○校内研究(算数科)の充実	○算数科における「算数チャレンジ」を生かした学習指導の充実	○校内研究の職員アンケートを実施し、算数科の取り組みや、「算数チャレンジ」を生かした授業実践に関する質問に対して、肯定的な回答をする職員の割合85%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習を活用した課題設定の工夫</li> <li>数学的な表現を用いた表現活動の工夫</li> <li>話し合いの目的を明確にした交流活動の工夫</li> <li>算数コーナーの掲示内容の工夫</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「算数チャレンジ」を生かした授業実践に関する質問に対して、肯定的な回答をする職員の割合が82%でB評価となった。「算数チャレンジの実践については、校内研究等で授業公開や「算数チャレンジ」の共有を図りながら、更に充実させていく必要がある。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「算数チャレンジ」を生かした授業実践に関する質問に対して、肯定的な回答をする職員の割合が93%になり、校内での共通理解および共通実践ができた。児童が授業前の段階で学習の意図をもって授業に臨む姿が確認できた。授業の時間や習熟の時間を十分に与えることができる良さを感じることができた。その一方で数学的な表現を用いた表現活動については、課題がある。</li> </ul>	・	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究主任</li> <li>研究副主任</li> </ul>

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員で共通理解を図った指導事項を確実に共通実践につなげることで、児童が落ち着いて生活や学習に取り組めるように導くことができた。また、「はとぶえタイム」や「縦割り掃除」などの異学年交流を実践したことで、児童に社会性も少しずつ身に付いてきている。来年度も、異学年交流を充実させ、日頃から共通理解したことを確実に実践する「凡事徹底」を図っていく。</li> <li>算数科における予習的家庭学習「算数チャレンジ」を生かした学習指導の充実を図ったことで、児童は見通しをもって意欲的に授業に臨むことができた。そのため、授業が高速化し、交流活動の時間や習熟の時間を十分にとることができた。来年度も効果的な「算数チャレンジ」を継続しながら、児童の数学的な表現力の向上を目指して、数学的な表現を意識した言語活動を工夫していく。</li> <li>今後も職員が声を掛け合いながら、児童のために「凡事徹底」ができる風通しのよい学校づくりを進めていく。</li> </ul>
----------------	--